

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月17日

【評価実施概要】

事業所番号	3770102204
法人名	有限会社 普門
事業所名	グループホームひがん
所在地	香川県高松市藤塚町一丁目11番5号 (電話)087-831-9667

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年7月6日	評価決定日	平成19年8月17日

【情報提供票より】(19年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 3月 15日
ユニット数	3ユニット 利用定員数計 27人
職員数	25人 常勤 21人、非常勤 4人、常勤換算 23.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての1階～4階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	25,000円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	27名	男性	10名	女性	17名
要介護1	2名	要介護2	9名		
要介護3	5名	要介護4	11名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.7歳	最低	76歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いがわ医院・医療法人優心会 高松大塚歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームでは、職員全体で考えた独自の具体的な理念を掲げ、入居者の誇りや思いを大切に、その人らしく自由な生活が営めるよう支援している。市の中心部という利便性に恵まれた環境にあり、栗林公園に近く、季節ごとに花見や散歩に出かけている。建物は鉄筋コンクリート4階建てであるが、屋上に手入れの行き届いた菜園があり、入居者が土に親しめ、収穫の喜びが味わえるほか、菜園の周囲は車椅子で回れ、外の空気に触れたり、小さな散歩ができるよう工夫されている。自治会への加入、地域の祭りへの参加、広報誌の配布など、地域との関係も深まってきており、ホームの積極的な働きかけによる成果が表れてきている。また、医療連携体制が確保されており、看護師が配置され、隣接の医療機関との連携が密に取られているため、医療措置を受けながらの生活の継続や、医師の往診など健康管理面などでその機能を活かした支援が行われ、本人や家族等の安心感は大きい。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の調査では共有空間づくり、感染症対策、市町との連携、研修受講後の共有、地域との交流等の項目で改善課題があったが、毎月開催している勉強会において、職員全体で問題点を話し合っている。また、運営推進会議で議題とし、協力を依頼して改善に取り組み、成果をあげている。ただ、共有空間づくりでの改善過程、市町との連携に関しては、今後の課題である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の各項目ごとに職員が手分けをして評価作業をしているため、評価に温度差が見られる。自己評価はその過程を通じて、職員の意識の統一やケアの反省、見直し等が可能となり、質の向上等につなげていくため、自己評価の全ての項目について、各ユニットの職員全体で話し合い、取り組むことが望まれる。自己評価結果は職員全員に周知されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホームの行事等や評価結果の報告、意見交換等が行われ、具体的な意見や助言がされている。災害時での地域への協力依頼も行われている。自治会からは「地域の人をホームに呼んで…」ではなく「入居者を地域に…」という助言があり、最近自治会に加入、広報誌の回覧等の協力を得ている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会が多いので、面会時に利用者の日々の様子等を報告し、意見要望等を聴くほか、家族会の開催や意見箱を入れやすい場所に設置し、アンケート用紙を置いて、書きやすい工夫がされている。出された意見等は記録し、職員全員で受け止め、運営に反映している。改善結果の家族への報告も行われている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭りに家族とともに参加し、手作り作品の展示や啓発・広報を行っているほか、保育所の行事に参加する等、地域と交流を持っている。また、最近、自治会に加入したので、今後、自治会主催の行事や地域活動への参加、地域住民との交流、災害時の協力等が大いに期待される。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合い、事業所としての独自の具体的な理念を作りあげている。さらに、地域密着型サービスを念頭においた理念の検討が期待される。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝朝礼時に職員全員で確認しており、職員は理念を理解し、日々実践に向け、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りに家族とともに参加し、事業所のコーナーを設けて、手作り作品を出品や啓発・広報を行っているほか、保育所の行事に参加する等、地域と交流を持っている。また、最近自治会に加入したので、今後、自治会主催の行事や地域活動への参加が、大いに期待される。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価結果を職員全員に周知し、毎月開催している勉強会で問題点を話し合い、改善に取り組んでいる。自己評価において、各項目ごとに職員が手分けをして評価作業をしているため、評価に温度差が見られる。	○	自己評価の課程を通じて、職員の意識あわせやケアの振り返り、見直し等が可能となり、サービスの質の確保や向上につなげていくため、自己評価の全ての項目について、各ユニットの職員全体で話し合い、取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催し、事業所の行事等や評価結果の報告、話し合いが行われ、自治会への加入やホームの広報誌を自治会で回覧する等、具体的な意見や助言が活かされている。広報誌の写真等は、家族の了承を得たものを使用している。自治会からは「地域の人をホームに呼んで…」ではなく、「入居者を地域に…」という助言があった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に出席し、意見を交わし助言も得ているが、他にはあまり連携はみられない。</p>	○	<p>市担当者へ、ホームの実情や取り組みを伝える等、事業所からの積極的な働きかけによる関係づくりが期待される。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会が多いので、面会時に利用者の日々の様子等は報告している。また、毎月金銭管理の報告、2か月ごとの家族会議や広報誌による報告も行われている。面会のできない家族については、毎月書面で近況報告が行われている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に管理者や職員が聴くほか、家族会の開催や意見箱の設置など、意見を聴く機会を設けている。意見箱は入れやすい場所に設置し、アンケート用紙を置いて、書きやすい工夫をしている。また、出された意見等は職員全員で受け止め、運営に反映している。改善結果は家族に回答している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>同法人の施設の開設による職員の異動があったが、現在は比較的落ち着いている。職員が全ての入居者に関われるよう、ユニット間で交流をしているが、少人数での交流とし、お互いに連携して入居者が不安にならないよう配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎年、計画的に順次、実践者研修等に参加し、勉強会で報告して全員で共有している。また、随時、協力医院より医療についての勉強会を実施するほか、毎月勉強会を実施する等、研修機会の確保に努めている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会参加の機会を捉え、同業者との情報交換等は図られているが、地域の同業者との交流までには至っていない。</p>	○	<p>地域の同業者とのネットワーク作りや勉強会など、交流や連携を通じ、サービスの質の向上に役立てるよう実践的な取り組みが期待される。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族等が見学し、面談しており、入居当初は本人の不安を除くため、家族に頻繁な訪問を依頼しているが、協力病院から直ぐ入居の場合を除き、事前に本人に訪問してもらったり、管理者や職員が本人と面談したりするまでには至っていない。	○	家族や医療機関と十分話し合い、入居が予測された時点で、少しでも早めにホームや職員が関わっていき、本人が安心して入居できるような取り組みが期待される。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で一緒に作業をしたり、時に教えてもらったり、一緒に楽しんだりしている。入居者同士も助けあったり、励ましあって、職員共々一緒に生活しているという様子がうかがえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、行動などから、本人の思いや希望、意向などを汲み取るよう努めている。本人からの把握が困難な場合は、家族等から情報を得るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向や家族の希望を聴き、職員の意見や気づきを反映して、個別具体的な介護計画が作成されている。現在アセスメント等に、独自に工夫が検討されており、今後さらに、本人の生活度を把握したうえでの個別ケアを重視した計画の作成が期待される。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しのほか、本人の状態の変化や、本人、家族の希望に応じて関係者と話し合い、随時見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所は医療連携体制が確保されており、看護師が配置され、医師との連携が密に取られているため、医療措置を受けながらの生活の継続や、医師の往診など健康管理面等で、その機能を活かした支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医以外にも本人や家族の希望により、家族の同伴により、かかりつけ医での受診を行っている。家族の同行が困難な場合は、職員が通院介助をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した入居者には、その都度対応しているが、事業所としての方針の統一が図られていないため、早い段階からの話し合いは行われていない。	○	医療連携体制が確保されていることもあり、早い段階から話し合いの機会を作り、本人や家族の意向の確認や、思いの変化にも留意しながら、関係者全体で方針の統一と共有が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼びかけや入室時の声かけ等によく配慮されており、職員から利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損なうような言葉かけや対応はみられない。広報誌へも本人や家族の了承を得たものを掲載しており、記録等の取り扱いについても留意されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかには事業所スケジュールに沿った生活ではあるが、それにこだわらず本人のペースで暮らしている。一人ひとりと向かい合って、その日にしたいことを把握し、本人のペースに合わせた支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3ユニットが交代で、入居者の希望を取り入れた献立表を作り、菜園の収穫物を取り入れたり、準備や配膳、食事などは職員も一緒に楽しんでいる。ただ、昼食は家族の希望もあり、準備の時間をケアに当てるため、現在週3回、おかずを弁当にしている。	○	外食や店屋物等をうまく取り入れることは、食事を楽しむための工夫として望ましいことであるが、食事に関する一連の作業も、暮らしの中で重要な部分をしめることから、弁当購入の固定化や配膳の仕方については再検討が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回決まった曜日、時間帯の中で本人のペースで入浴している。入浴を拒む人については、できるだけ入浴するよう支援しているが、決まった日や時間以外での入浴は今のところ行われていない。	○	3ユニットの中のどこかでも、本人の希望にあった入浴日や時間帯での入浴が可能になるよう、職員ローテーションも含めて工夫が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人との会話や家族などから、生活暦や趣味などの情報を収集し、カラオケや折り紙、古文書への知識など一人ひとりの得意分野や楽しみごとへの支援をしている。また、職員と一緒に、菜園の仕事や洗濯物たたみ、掃除などの家事での役割を發揮できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物など、希望に沿ってできるだけ外出の機会をもっている。栗林公園が近いことから、季節ごとに見学したり、ドライブを兼ねて遠足に行ったりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の多い道路に面していることから、建物の内部からは自由に外に出られないようになっている。また、建物の構造上3ユニットが縦に配置されているが、危険防止のため、各ユニットの階段の入り口のドアが施錠されているほか、エレベーターも入居者が一人では利用し難い仕組みになっている。	○	他のユニットや外に出るときは、職員が付き添っている。施錠等の常態化は、建物の構造上、危険防止のためのやむを得ないことと考えるのではなく、入居者の立場で考え、見守りの徹底やソフト面での工夫で、入居者の安全面に配慮しつつ、改善に向け検討されることが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の協力による訓練のほか、年に2回自主的に避難訓練を実施し、避難経路や場所に関して、職員間で共有されている。また、運営推進会議において、地域に協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は把握しており、不足しているときには適切な支援を行っている。栄養バランスの観点から、協力医院の栄養士のアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や台所、浴室などは自然光を取り入れ、適度に明るく、季節の花や飾りつけ等で、居心地の良い生活空間となっている。ソファを設置しているユニットもあるが、他のユニットでもソファ等のくつろげる場所があれば、なお一層、居心地の良い共有空間になると思われる。屋上に菜園を作り、周囲を散歩したり、季節によっては食事をして楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一部の人を除き、入居者が小さな仏壇や位牌、家族の写真など、自分の物を持ち込み、各自が自由な居室となっている。		